

りへをきて扱小汁をおろし、かさと又我左の膳のすみにあるさいを、兩の手にて取、二の膳にすへて、小汁をば本膳にいつもの所に右の手にてをき、またいづものごとくめしをくふ也。○中又包飯のめしをば汁のわんにもる也、又包飯のふたは、小麥にてうすくきりむぎのごとくうちて、まろくわんの口程にくらべて切て、三ツにわりてかぶせ候盛物は五色たるべし、中の盛物に其時の花をかうの物にてもあれ、又何にてもあれ、くふ物の類を花にしてをくなり、

〔躰方明記<sup>四</sup>〕一はうはん參候わん事、冷汁出候は、食べ直に請、扱給時上の粉を箸にて押退て給る也、先汁を請時は、箸をとらずして請、下に置て扱見合、箸を取給也、はうはんには跡を殘さぬもの也、

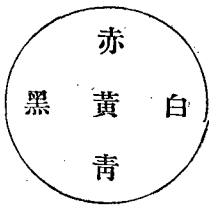
〔故實雜々聞書〕一飭飯のくいやうの事、はうばんは下座まで參候は、其時箸をナヲシ、はんのかさを取、汁をうけ上置、さきへつきのくるやうにめされまいり候、はうばんには、汁をおほくうくる事よく候、口傳有、

〔異本故實條々<sup>下</sup>〕一はうばん食様之事、めしのかさニ土器をする事、後ニ盃ニなすべきためなり、土器は右之脇ニ置べし、汁參候時、五色之菜をめしの上ニ少シヅ、置汁を請用、當季之色を殘ス事ならいなり、皿ニ置也、

春青 夏火 土用黄 秋白 冬黑○中略

一はうばんの事、先飯を取て、次ニ箸を取なり、扱汁を飯のひたる程ニ請て、當季を菜の季移の

飭飯



前

春之體也